

萩市企業景況調査

DI方式

平成24年 1月～ 3月期 実績
平成24年 4月～ 6月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは？

DI は各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向（「良い」）の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向（「悪い」）の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合)
- (減少・悪化など「悪い」の回答割合)
※設備投資は割合 (%)

《調査機関》萩商工会議所

景況依然厳しいが、マイナス幅縮小。 一先行きは依然不透明

景況の概要

平成24年4月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率95%)

生産・売上 1～3月期の季節要因などから、前期比DIは建設業以外の業種が減少(平均▲44.6ポイント)、前年同期比はサービス業、観光関連業以外が減少(平均▲22.8ポイント)するなど厳しい状況となったが、マイナス幅は縮小。今後(4～6月期)の見通しでは、観光シーズンを迎える観光関連業やサービス業、また製造業が増加すると予想している(平均▲5.3ポイント)。

収益 生産・売上と同様に厳しいが、マイナス幅は縮小傾向。今後の見通しでは製造業やサービス業、観光関連業が増加すると予想している。

資金繰り 実績は業種間でバラツキがあり、見通しは厳しい予想となっている。

従業員数 小売業・サービス業・観光関連業で人員不足、他の業種は人員に過剰感があるとしている。

経営上の問題点 ①需要の停滞 51.9% ②同業他社との競争激化 11.1% ③原油価格高騰によるコスト増加 9.3%の順などとなっているほか、人員の確保難、後継者問題などが挙げられている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、先行き不透明感などから全ての業種が悪化(平均▲54.4ポイント)すると予想。特に建設業・卸売業・小売業の停滞が目立っている。

景況に関する生の声

- 建設業 官民一体となって地域経済活性化策を打ち出さなければならない(電気工事)。公共工事が減少し同業者間での競争が激しく、受注することが厳しくなっている(総合建設)
- 製造業 需要が非常に停滞(製材)。原油高によるコスト(資材費等)が増加(水産加工)。水揚量の深刻な落ち込みに苦戦(水産加工)。IT化により業界全体が不景気(印刷)。関東圏の観光客が連休以後、東北地方へシフトする恐れ(菓子製造)。
- 卸売業 時化による漁獲量の減少で仕入価格が上昇(鮮魚)。飲食業界の不況(調味料・飲料水)。
- 小売業 消費者ニーズの多様化(玩具)。競合店の出店による競争激化(大型店)。山陰道開通の影響で客数減(コンビニ)。
- 観光関連業 景気の不透明感により消費動向が鈍い(萩焼店)。発表された観光客数と実感が合わない(工房)。

項目 / 業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均	
生産・売上	前期比	11.1	▲70.0	▲60.0	▲33.3	▲50.0	▲60.0	▲44.6	▲50.0	▲37.5
	前年同期比	▲66.7	▲30.0	▲50.0	▲44.4	44.4	10.0	▲22.8	▲37.5	▲28.6
	24年4月～6月期見通し	▲66.7	30.0	▲10.0	▲55.6	11.1	50.0	▲5.3	▲23.2	▲16.1
収益	前期比	0.0	▲70.0	▲30.0	▲22.2	▲66.7	▲50.0	▲40.4	▲42.9	▲42.9
	前年同期比	▲66.7	▲20.0	▲40.0	▲44.4	11.1	▲10.0	▲28.1	▲33.9	▲17.9
	24年4月～6月期見通し	▲44.4	10.0	▲40.0	▲33.3	22.2	30.0	▲8.8	▲25.0	▲19.6
資金繰り	前期比	▲22.2	▲30.0	▲20.0	0.0	0.0	11.1	▲10.7	▲29.1	▲8.9
	24年4月～6月期見通し	▲22.2	▲10.0	▲30.0	▲22.2	▲11.1	▲11.1	▲17.9	▲21.4	▲23.2
従業員数 24年3月末	▲11.1	▲10.0	▲40.0	22.2	55.6	55.6	10.7	▲19.6	▲10.7	
設備投資	(実績)	0.0	20.0	20.0	11.1	11.1	30.0	15.8	16.1	14.3
	(計画)	0.0	50.0	20.0	0.0	22.2	0.0	15.8	12.5	8.9
業界動向	▲77.8	▲40.0	▲70.0	▲77.8	▲22.2	▲40.0	▲54.4	▲66.1	▲73.7	